

青森大学 社会学部

地域課題を解決し、
社会の未来をつくる自分に出会う

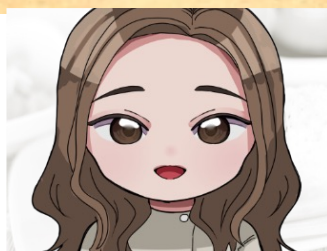
学生企画・実施(あおりんプロジェクト)
「語り合おう 私の気持ち・あなたの思い」
ご協力ありがとうございました！



12月9日(土)青森大学学生活動支援「あおりんプロジェクト」の助成を活用し、社会学部学生2.3年生の有志と主に青森市内の福祉現場の職員の方々が協働し、「語り合おう 私の気持ち・あなたの思い」というイベントを開催しました。このイベントは学生たちが自ら障害者支援事業所を訪問し、趣旨説明と協力依頼をし現場の福祉職員の方々と一緒になって準備をしていきました。当日は、地域生活をしている障害のある方を中心に、大学生、そして一般市民を合わせ約90名ほどの参加者にお集まりいただきました。参加者は障害の有無や年齢の違いを超え、グループに分かれて、フリートークを行いました。参加者からは「初めて話したけど、楽しかった」「また次回も参加したい」といった声がたくさん聴かれました。この声により、スタッフとして参加した学生達も「大変だったけど、やってよかった」と充実した体験をすることができました。

学生へのインタビュー

(社会福祉コース2年 成田彩香さん(弘前中央高校出身))



成田さん似顔絵イラスト作成(社会学部福祉コース2年坪田さん)

成田さんは、上記イベントにもスタッフとして参加しました。友達から誘われて決めた参加でしたが、今では、ほんの小さな場所だけでも、地域の中に障害の有無にかかわらず交流できる居場所を作ることができてよかったと感じているとのこと。

準備を始めるときに「自分たち学生の考えが甘すぎて、福祉現場の職員の方々に「協力しない」といわれたらどう

しよう」と不安に思っていました。実際にはまったくそんなことはなく、むしろ現場職員の方々がどんどんサポートしてくれたことで「大人ができなかったことを自分たち学生ができて本当によかった」と自信につながったとのこと。

将来的には、「地方だから福祉が十分ではない」と言われることをなくしていけるように地域に役立つ福祉人材になりたい、ということでした。

社会学部での活動の一部をご紹介します！

青森大学 社会学部 NEWS

Faculty of Sociology

06

社会学部では高大連携授業を推進しています。

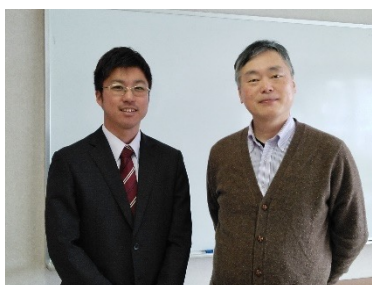
社会学部では、教員の専門分野に応じて高校生を対象とした連携授業や出前授業を通じて「探求学習」のお手伝いを積極的に行っています。下記の一覧は、今年度実施した高校生向けの授業テーマの一部です。どの授業も、入門的な内容でさらにアクティブラーニングを活用しつつ社会に起こっている問題を体験的に理解できる内容となっています。2025年度も、様々なテーマで取り組みを進めていきますので、興味のある方は、青森大学社会連携センター（017-738-2001（代表）またはsyakairennkei-madoguti@aomori-u.ac.jp）までご連絡いただければと思います。

教員名	高大連携や高校への出前授業のテーマ（一部）
清川繁人先生	○ねぶたの発祥とは ○青森ねぶたのルーツを探ろう ○平和を守る津軽の忍者たち ○「世界のムナカタ」棟方志功120年の足跡をたどる
佐々木淳一先生	○コンパクトシティへの取り組み ○都市(まち)のつくりかた ○都市(まち)のつくりかた・さあ！みんなで素敵な『都市』を自由自在に創ってみよう！
石井重成先生	○地域活性の事例と手法 ○地域活性とは何か。もし、あなたが浅虫の地域活性化伝道師だったら...？
金二城先生	○社会は持続可能なのか？ ○SDGs時代の未来人材 ○SDGsと青森のゴミ問題
柏谷至先生	○薪ストーブが青森を救う？ ○アンケート”にだまされない方法～社会調査・入門～
田中志子先生	○対人援助とコミュニケーション ○「しょうがい」ってなんだろう ○「みんなちがって、みんないい」はず。。。身近な差別を考える

授業紹介

コミュニティ創生コース：文化社会学

科目担当：木原博先生、清川繁人先生



「社会」や「文化」をモノや形として見たことがあるでしょうか。また、社会や文化と聞くと、テレビで観るようなもの凄く大きいものだと思いがちです。ただ、実は私たちの身の周りには大小様々な社会や文化があります。

文化社会学の講義では、社会って何？文化ってどんなものだろう…を出発点として、侍・忍者・食・芸能（神楽）などをとりあげながら、日本あるいは青森の文化について紹介しています。そして、これらが社会や私たちの生活とどのような関係があるのか、詳しく学んでいます。